

授業科目名	海外実習 B	担当教員	藤野 一夫 岡元 ひかる
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	実習		
開講年次	2年第2クォーター		
講義内容	南西ドイツのフランスとルクセンブルクとの国境に位置するトリーア大学日本学科を拠点に、トリーア大学及びトリーア市立劇場との連携において3週間の海外実習を行う。また、ルクセンブルク大学との国際演劇コースとも連携し、国境を超えた演劇の国際性について学ぶ。さらに、2022年夏にドイツ中部カッセル市で開催される世界最先端の国際芸術展「ドクメンタ」や首都ベルリンのアートシーンを視察し、ドイツにおける多文化共生を目指す文化政策とアートマネジメントの実際について研修する。		
到達目標	到達目標 海外において公立劇場を中心としたアートマネジメントの実務経験を積むことで、地域創生を視野に入れた国際的社会人となることを目指す。また、演劇制作とその公演を通じて、ドイツで日本学を学ぶ学生と協働し、現地の青少年との交流を推進することで、国際芸術交流の理念と技法を実地に学ぶ。		
授業計画	<p>ドイツのトリーア大学日本学科を拠点に、トリーア大学及びトリーア市立劇場との連携において3週間の海外実習を行う。</p> <p>宿泊先：トリーア大学学生寮もしくはコルピングハウス</p> <p>期間：8月中旬～9月初旬の3週間</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. (出発前)「事前講習」実習先の情報や安全対策等の講習、目標設定、実習計画の作成、ドイツ文化講座と文化政策講座 2. (第1週目)トリーア大学で日本学と演劇学を学ぶ学生の参画を得て、演劇ワークショップを行う。 3. (第2週目)トリーア大学、トリーア市立劇場、ルクセンブルク大学と連携し、公立劇場の職能全般についての研修を行い、また演劇の国際性について学ぶ。 (実習中は毎日、実習日誌を作成し、担当教員に報告を行う。) 4.(第3週目)ドイツ中部カッセル市で開催される国際芸術展「ドクメンタ」や首都ベルリンのアートシーンを視察し、ドイツにおける多文化共生を目指す文化政策とアートマネジメントの実際について研修する。 5. (帰国後)「完了報告」完了報告書の作成、報告会 (報告会には1年次にも参加を促し、来年度の実習の参考にする) 		
事前・事後学習	事前：実習地について調査し、実習計画を作成する。 事後：完了報告書を作成（毎日、学んだこと、気付いたことなどを記録する）		
テキスト	藤野・フォークト他編著『地域主権の国 ドイツの文化政策』（美学出版）		
参考文献	藤野編著『公共文化施設の公共性』（水曜社） 藤野編著『市民がつくる社会文化 ドイツの理念・運動・政策』（水曜社）		
成績評価の基準	レポート（完了報告書）（50%）、実習態度（50%）		

履修上の注意 履修要件	海外実習は、異なる文化圏での活動となるため、相手の文化や習慣を尊重し、危険な行為を行わないように注意して参加すること。 病気や怪我等がある学生は履修前に担当教員に相談し、参加可能であるか確認すること。 英語・ドイツ語等の外国語コミュニケーション能力があれば参加可能である。
実践的教育	該当しない。
備考欄	国際交流センターに、ドイツ語とドイツ文化に詳しいコーディネーターの河合温美さんが常駐しているので、いつでも相談できます。